

事務事業名		学校施設整備事業		☒ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																											
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																											
	施策名	27 義務教育の充実																													
	基本事業名	01 学校施設・設備の整備及び充実		予算科目 <table border="1"> <tr> <th>会計</th> <th>款</th> <th>項</th> <th>目</th> <th>事業</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">01</td> <td rowspan="4">10</td> <td>02</td> <td>01</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>04</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>01</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>03</td> <td>00</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>04</td> <td>01</td> <td>03</td> </tr> </table>		会計	款	項	目	事業	01	10	02	01	12	02	04	00	03	01	10	03	03	00			04	01	03		
会計	款	項	目	事業																											
01	10	02	01	12																											
		02	04	00																											
		03	01	10																											
		03	03	00																											
		04	01	03																											
根拠法令				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度～)																											
所属	部課名	教育委員会事務局 生涯学習課		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																											
	課長名	江刺 雄輝																													
	係名	施設整備係	電話 0192-27-3111																												
	担当者	川内 利誉	内線 275																												
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 小学校12校、中学校8校の校舎・体育館・プールについて、損耗や機能の低下により使用に耐えない状態になった施設等の修繕を行い、学校環境の改善を図る。 具体的には、各校等からの修繕要望に基づき、緊急度、優先度を勘案し、各種修繕を行うとともに、漏水等の緊急的な修繕を随時実施する。 また、学校施設の耐震性能を確保するため、文部科学省基準であるIs値0.7未満の施設について、施設耐震改修工事を進める。																															
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="8">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="3">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)		0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A)+(B)			0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																													
		都道府県支出金																													
		地方債																													
		その他																													
		一般財源																													
	事業費計 (A)		0																												
	人件費	正規職員従事人数																													
		延べ業務時間																													
人件費計 (B)		0																													
トータルコスト(A)+(B)			0																												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標																		
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 学校施設等の修繕、大船渡中・末崎中への太陽光発電設備設置 小学校トイレ洋式化改修(洋式化率を全体で40%以上に向上) 耐震改修設計業務の実施、一部施設耐震改修工事の着工 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 学校施設等の修繕 中学校トイレ洋式化改修(洋式化率を全体で40%以上に向上) 耐震改修工事の実施	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 修繕要望件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ 修繕件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 修繕要望件数	件	イ 修繕件数	件	ウ		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 学校の施設数</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>キ 園児・児童生徒・教職員数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 学校の施設数	箇所	キ 園児・児童生徒・教職員数	人	ク	
名称	単位																	
ア 修繕要望件数	件																	
イ 修繕件数	件																	
ウ																		
名称	単位																	
カ 学校の施設数	箇所																	
キ 園児・児童生徒・教職員数	人																	
ク																		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 小学校、中学校(校舎、体育館、プール等) 児童・生徒、教職員	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%	シ		ス										
名称	単位																	
サ 修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%																	
シ																		
ス																		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 学校施設・設備が安全で快適に利用できる。																		
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で快適な学習環境になる。																		

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費	財源内訳	単位	千 円	13,122				255,000
			千 円						
			千 円		10,900			39,600	37,600
			千 円				58,440		
			千 円	6,515	15,268	129,096	164,993	258,613	37,028
	事業費計 (A)		千 円	19,637	26,168	129,096	164,993	356,653	329,628
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	3	2
		延べ業務時間	時 間	1,000	1,000	1,000	1,000	4,800	3,600
		人件費計 (B)	千 円	4,000	4,000	4,000	4,000	19,200	14,400
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	23,637	30,168	133,096	168,993	375,853
⑤活動指標		ア	件	212	115	215	221	188	160
		イ	件	150	92	131	203	151	136
		ウ							
⑥対象指標		カ	箇所	110	110	110	110	110	110
		キ	人	2256	3396	3257	2967	2488	2300
		ク							
⑦成果指標		サ	%	70.80	80	61	92	80	85
		シ							
		ス							

事務事業ID	0947	事務事業名	学校施設整備事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 「学校教育法第5条 学校の設置者は、その設置する学校を管理し、法令に特別の定のある場合を除いては、その学校の経費を負担する。」による。	
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ ・昭和40年代～50年代建築の校舎等が多く、施設の老朽化が進行しており、施設を良好な状態で維持管理していくのは容易ではない状況にある。 ・文部科学省通達により、平成32年度までに各学校施設の維持管理計画を策定する方向。	
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 学校、保護者、議会から改善要望が多数ある。	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		・年々施設の老朽化が進行しており、児童生徒の安全面を重視したうえでの対処療法的な対応に至っているのが実状。 ・耐震性能確保が喫緊の課題であることから、耐震改修設計及び早期の工事着手を実現。 ・学校要望の高かった小学校のトイレ洋式化(全体の40%まで向上)を実現。 ・老朽化等に追従できなければ、どこかの時点で大規模改造の必要が生じてくる。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 当面は、児童生徒の安全面に配慮した既存施設の維持補修と施設の耐震性能確保を最優先とした業務を実施していく。 また、既存施設の大規模改修(特に屋根補修と体育館床補修)については、今後、大船渡市公共施設管理計画、学校規模適正化計画、(文部科学省通達)平成32年度までに策定(仮称)各学校施設維持管理計画の策定過程における各種協議の中で、方向性を見出していく。		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
老朽化が進行し、施設の数も多く、施設の改築・改善のためには多額の費用が見込まれるが、少子化により児童・生徒数が減少し、空き教室が増加傾向にあることから、改修費用の抑制とともに、よりよい教育施設環境の充実を図るためには、施設の統合・縮小が必要である。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	生涯学習課長	江刺雄輝

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																							
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	限られた人員、予算の中で、小中学校の実情を調査のうえ優先順に改修・修繕を行っている。																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(5) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 建築後長期経過している施設が多いことから、施設管理計画により改修を年次的に行う必要がある。		左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項